

7農総試第102-8号
令和7年11月4日

関係各位

愛知県農業総合試験場長

病虫害発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和7年度病虫害発生予報第8号（11月）

令和7年度病虫害発生予察特殊報第4号

担当 環境基盤研究部病虫害防除室

電話 0561-41-9513

ファックス 0561-63-7820

令和7年度病虫害発生予報第8号（11月）

令和7年11月4日

愛知県 県

果樹

・予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	ミカンハダニ	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±

・留意事項

カンキツやナシ、モモ、カキ等のほ場において、外来種であるチュウゴクアミガサハゴロモの発生が確認されています。詳細は、本日発表の「令和7年度病虫害発生予察特殊報第4号」を参照してください。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ハクサイ	軟腐病	やや多い	県全域	10月下旬の発生量はやや多い 11月の降水量は多い	＋ ＋
	べと病	やや多い	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の降水量は多い	± ＋
	アブラムシ類	平年並	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない 11月の気温は高い	－ ＋
	コナガ	やや多い	県全域	10月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 11月の気温は高い	± ＋ ＋
キャベツ	黒腐病	平年並	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない 11月の降水量は多い	－ ＋
	菌核病	やや多い	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の降水量は多い	± ＋
	コナガ	平年並	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 11月の気温は高い	－ ± ＋
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±
	黄化葉巻病	やや多い	県全域	10月下旬の発生量は平年並 10月下旬のコナジラミ類の発生量は平年並 11月のコナジラミ類の予想発生量はやや多い	± ± ＋
	コナジラミ類	やや多い	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の気温は高い	± ＋
ナス (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の気温は高い	± ＋
キュウリ (施設)	うどんこ病	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない	－
	べと病	やや多い	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の日照時間は少ない	± ＋
	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の気温は高い	± ＋
イチゴ (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない 11月の気温は高い	－ ＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
野菜共通	ハスモンヨトウ	平年並	県全域	キャベツほ場における10月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
	オオタバコガ	やや多い	県全域	キャベツほ場における10月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	＋ ＋

・防除対策

〔ハクサイ・軟腐病〕

収穫前日数に注意して、バリダシン液剤5、ジーファイン水和剤やコサイド3000などで防除しましょう。結球期以降は、薬害を生じるおそれがあるため無機銅剤の使用は避けましょう。

〔ハクサイ・べと病〕

収穫前日数に注意して、オロンディスウルトラSCやザンプロDMフロアブルなどで防除しましょう。

〔ハクサイ・コナガ〕

収穫前日数に注意して、スピノエース顆粒水和剤やフィールドマストフロアブルなどで防除しましょう。薬剤感受性の低下を防ぐため、系統の異なる薬剤でローテーション散布しましょう。

〔キャベツ・菌核病〕

収穫前日数に注意して、カナメフロアブルやセイビアーフロアブル20などで防除しましょう。

〔トマト（施設）・黄化葉巻病、コナジラミ類〕

10月1日発表の「コナジラミ類情報第2号」を参考にしてください。

〔ナス（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

コテツフロアブルやベストガード水溶剤などで防除しましょう。

〔キュウリ（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

コテツフロアブルやベストガード水溶剤などで防除しましょう。

〔キュウリ（施設）・べと病〕

ゾーベックエンテクタSEやジャストフィットフロアブルなどで防除しましょう。

〔野菜共通・オオタバコガ〕

10月17日発表の「令和7年度病害虫発生予察注意報第7号」を参考にしてください。

・留意事項

県内5地点に設置したトマトキバガのフェロモントラップでは、秋になり各地で誘殺数が増加傾向です。詳細は、本日発表の「トマトキバガ情報第2号」を参照してください。

トマト黄化葉巻病（TYLCV）はタバココナジラミにより媒介され、トマト黄化病（ToCV）はコナジラミ類によって媒介されます。発病株は抜き取り適切に処分するとともに、媒介虫の防除を徹底しましょう。

キュウリほ場における10月下旬の巡回調査では、コナジラミ類の発生量が多い状況でした。キュウリ退緑黄化病（CCYV）はタバココナジラミにより媒介されます。また、キュウリ黄化えそ病（MYSV）はミナミキイロアザミウマにより媒介されます。発病株は抜き取り適切に処分するとともに、媒介虫の防除を徹底しましょう。

キャベツ、ブロッコリーの黒すす病が近年多発しています。本病は下位葉から上位葉や

花蕾へ伝染するとともに、降雨及び強風により発生が助長されます。一度発生が拡大すると防除が困難となるため、注意が必要です。早期発見に努め、病徴が進行した株は処分しましょう。ブロッコリーでは一部系統の殺菌剤に対する感受性が低い菌株を確認していることから、薬剤選択は指導機関に相談しましょう。本病の詳細については、7月2日発表の「令和7年度病害虫発生予察特殊報第3号」及び7月16日発表の「ブロッコリー黒すす病情報第1号」を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台 10月30日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。

低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ないでしょう。平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：30% 高い：60%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：30% 多い：50%

〔日照時間〕 少ない：50% 平年並：30% 多い：20%